

# フォートラベル株式会社

## 2008-2009年末年始の旅行動向調査

<調査期間> 2009年1月7日~2009年1月14日

<調査対象> 「旅行のクチコミサイト フォートラベル」会員

<調査回答サンプル数> 688人

<調査実施> フォートラベル株式会社

代表取締役社長 野田 臣吾

担当：管理グループ 矢野 智美

監修：旅行ジャーナリスト 村田 和子

## 調査概要

1) 調査概要	P3
---------	----

## 回答者の属性

1) 回答者の属性 (基本データ)	P5
2) 回答者の属性 (旅行頻度)	P6

## 調査結果

1) 年末年始の過ごし方の傾向 ～「自宅でのんびり過ごした」が40.1%でトップ、続いて帰省、海外旅行と続く～	P8
2) 年末年始の過ごし方(計画と実際) ～計画と実際が異なったのは全体の14.8%。変更理由としてツアー中止も～	P9
3) 年末年始の休暇日数と旅行期間 ～平均休暇日数は8.1日。旅行期間は全体的に夏よりも短い傾向に～	P10
4) 旅の同行者 ～海外旅行は「夫婦」、国内旅行は「家族」と一緒にがトップ。「ひとり」旅も人気～	P11

### 旅の同行者 (続き)

～旅の同行者と旅行動向は、属性に左右されるところが大きく～	P12
-------------------------------	-----

5) 旅の手配内容 ～海外旅行の67.6%、国内旅行の83.7%が個人手配。ツアーは振るわず～	P13
6) 申し込み窓口 ～Webからの申し込みが増加、旅行会社の窓口は昨夏よりも減少～	P14
7) 旅行費用について ～1人当たりの平均旅行費用は、国内旅行は0.9万円高く、帰省は1.1万円少なく～	P15
8) 旅行の予約時期 ～帰省は45.1%が当日手配、もしくは予約をしない。旅行会社での手配はツアー発売後早めに動く～	P16
9) 旅の計画時に重視するポイント ～海外、国内とも「行き先重視」「目的重視」「条件重視」の順に多い。国内旅行では「目的重視」が急増～	P17
10) 旅の情報収集 ～全体的に情報収集意欲が低下。クチコミは微増。季節的な要因も大きいのか～	P18

## まとめ

1) 2008年-2009年末年始旅行動向調査の結果総括 (旅行ジャーナリスト 村田和子)	P20
---	-----

## 調査結果利用等

1) 調査結果の利用、その他お問い合わせについて	P22
--------------------------	-----

# . 調査概要

# 1)調査概要

## 【調査目的】

「誰がどのように旅行を計画し、実際にどのような旅行にでかけたか？」という、旅行者の実態を定期的に調査し、様々な要因と旅行動向の関係性を明らかにし、調査により得られた旅行動向、及び旅行者の声を、旅行業界・社会に向けて発信する。

本調査は2008年夏に続き、2回目の実施。今後、春（GW）、夏（夏休み）、秋（秋の連休）、冬（年末年始）の各旅行シーズンに、定期的に行う予定。

## 【調査対象と方法】

調査対象：フォートラベル会員(過去に調査協力実績のある人を抽出)

調査方法：メール送信により、専用の回答フォームに誘導

## 【調査項目】

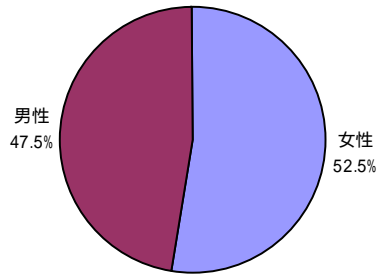
年末年始（2008年12月20日～2009年1月12日）の過ごし方、また旅行動向の傾向について、以下の調査項目を設定

- ・ 年末年始の連続した休暇日数
- ・ 年末年始の過ごし方について（計画と、実際にどのようにして過ごしたか）
- ・ 年末年始の旅行費用
- ・ 旅行予約の手配内容とその方法
- ・ 旅行予約の時期
- ・ 旅行を決める際に重視するポイント
- ・ 旅行前に参考にするメディア
- ・ 旅の極意（別途報告予定。今回の報告書の記載は対象外）

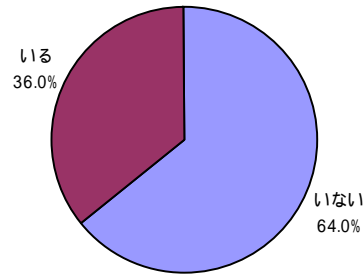
# . 回答者の属性

# 1) 回答者の属性 (基本データ)

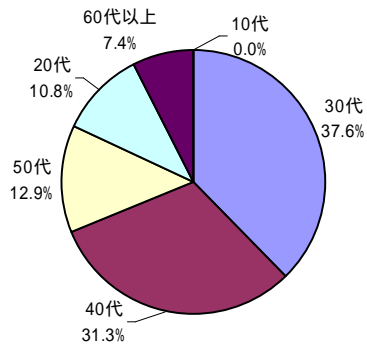
属性グラフ1: 性別



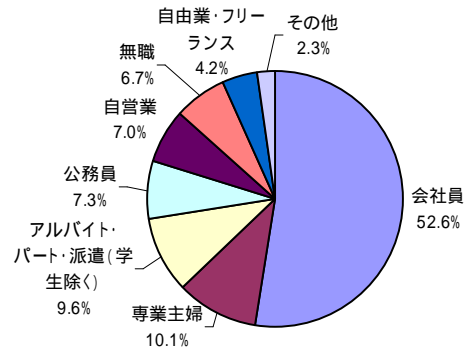
属性グラフ4: 子供の有無



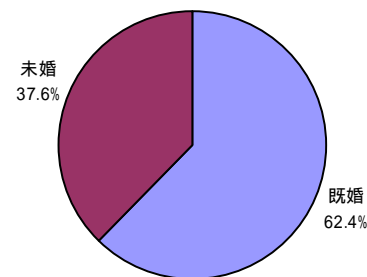
属性グラフ2: 年代



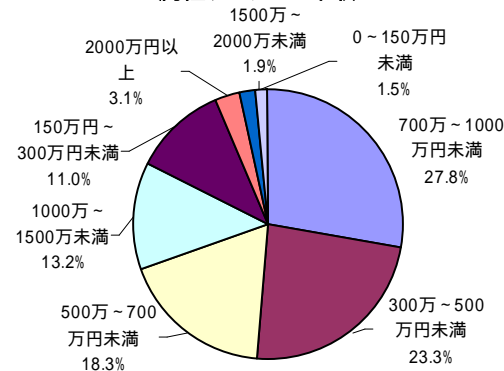
属性グラフ5: 職業



属性グラフ3: 未婚・既婚



属性グラフ6: 年収



## 【分析】

- ▶ 性別は、女性52.5%、男性47.5%と、やや女性の方が多い。(参照：属性グラフ1)
- ▶ 年代は、30代が37.6%、40代が31.3%、50代が12.9%という順に多く、30代、40代で約7割を占める。平均年齢は41.7歳となった。(参照：属性グラフ2)
- ▶ 未婚・既婚については、既婚者が62.4%、未婚者が37.6%となった。(参照：属性グラフ3)
- ▶ 子供の有無は、「子供がいる」と回答した人が36.0%、「いない」と回答した人が64.0%と、子供がいない人が6割以上に上る。(参照：属性グラフ4)
- ▶ 職業は「会社員」が最も多く52.3%、「専業主婦」10.0%、「アルバイト・パート・派遣」9.6%という順に。学生については0.6%と少なく。(参照：属性グラフ5)
- ▶ 年収は「700万~1,000万円未満」が27.8%と最も多く、続いて「300万~500万円未満」23.3%、「500万~700万円未満」18.3%という結果に。中央値は「500万~700万円未満」にあり、世帯年収1,000万円以上は、全体の18.2%になった。以下のデータと比較すると、所得の高い層が回答者に多いことがわかる。(参照：属性グラフ6)

参考) 平成19年国民生活基礎調査の世帯所得年収は566.8万円。  
中央値は 451万円。所得金額が1,000万円以上の割合は13.0%。

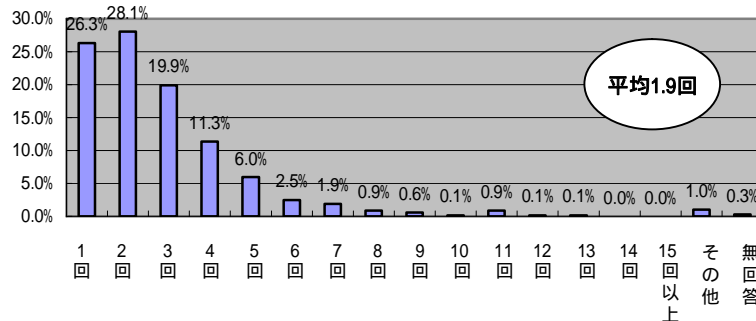
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa07/2-1.html>

## 2) 回答者の属性(旅行頻度)

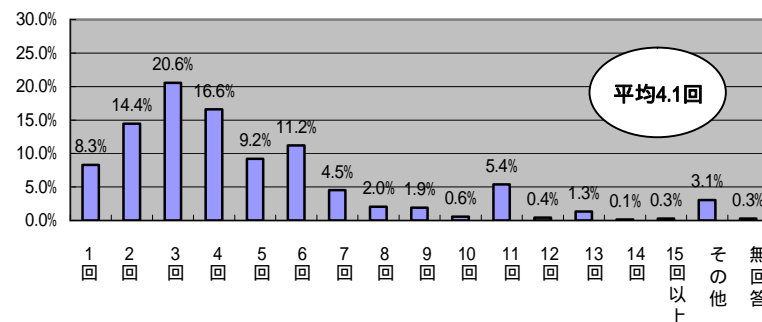
属性表1: 直近1年間における海外旅行と国内旅行の実施状況

		国内旅行			
		行った	行かない	無回答	総計
海外旅行	行った	66.9%	6.5%	0.0%	73.4%
	行かない	24.4%	1.7%	0.1%	26.3%
	無回答	0.1%	0.0%	0.1%	0.3%
	総計	91.4%	8.3%	0.3%	100.0%

属性グラフ7: 直近1年間に海外旅行へ行った回数



属性グラフ8: 直近1年間に国内旅行へ行った回数



### 【分析】

- 直近1年間に海外旅行を経験した人は73.4%、同じく国内旅行については91.4%に上る。(参照:属性表1)
- 直近1年間に海外、国内旅行のいずれにも行っていない人は全体の1.7%にとどまり、逆に海外・国内旅行の両方に行った人は66.9%となった。(参照:属性表1)
- 直近1年間に海外旅行へ行った回数について質問したところ、「1回」と回答した人が最も多く28.1%、続いて「0回」が26.3%、「2回」が19.9%となった。平均は1.9回。(参照:属性グラフ7)
- 国内旅行は「2回」が20.6%、「3回」が16.6%、「1回」が14.4%という順に多く、平均は4.1回となった。(参照:属性グラフ8)

### 【考察】

- 前回と今回の回答者の属性の変化については、以下2点を考慮すると、本調査への影響は限定的と考えられるため、以下の頁における調査結果を分析する上では、回答者の属性は同一であると仮定する。
  - ・前回(2008年夏)行った“夏の旅行動向調査”と比較すると、属性(基本データ)については、年代別で20代が減少(-4.2%)、既婚者が増加(+6.8%)等、若干の変化しかみられない。
  - ・旅行頻度については、海外旅行の平均旅行回数は1.9回で前回と変わらず、国内旅行は4.1回と微増(0.1回up)であった。

# . 調査結果

# 1)年末年始の過ごし方の傾向

～「自宅でのんびり過ごした」が40.1%でトップ、続いて帰省、海外旅行と続く～

グラフ1: 休暇の過ごし方

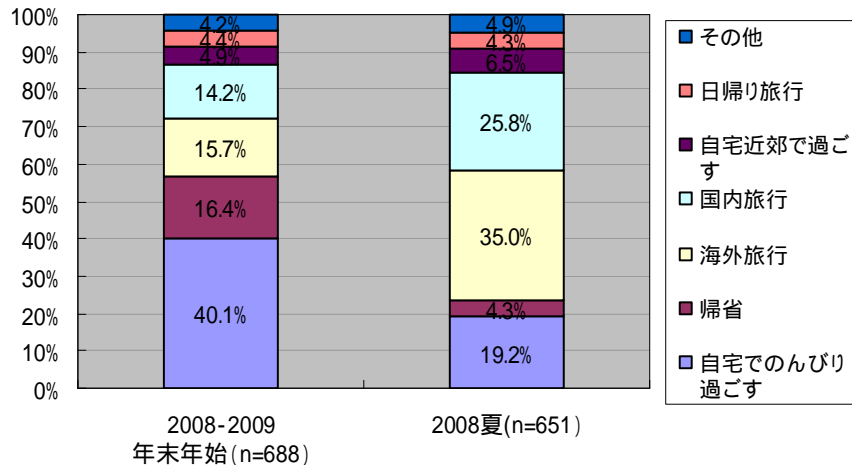


表1: 年末年始の過ごし方ランキング(2008年夏との比較)

	2008-2009年末年始 (n=688)		2008年夏 n=651	
1位	自宅でのんびり過ごす	40.1%	海外旅行	35.0%
2位	帰省	16.4%	国内旅行	25.8%
3位	海外旅行	15.7%	自宅でのんびり過ごす	19.2%
4位	国内旅行	14.2%	自宅近郊で過ごす	6.5%
5位	自宅近郊で過ごす	4.9%	その他	4.9%
6位	日帰り旅行	4.4%	帰省	4.3%
7位	その他	4.2%	日帰り旅行	4.3%

## 【分析】

- ▶年末年始の過ごし方は、「自宅でのんびり過ごす」が40.1%でトップ。続いて「帰省」16.4%、「海外旅行」15.7%、「国内旅行」14.2%という順に。(参照：グラフ1)
- ▶自宅を拠点に過ごした人(自宅、自宅近郊、日帰りの合計)は全体の49.4%になり、自宅以外を拠点に過ごした人(海外旅行、国内旅行、帰省の合計)の46.3%をわずかに上回る。(参照：グラフ1)
- ▶前回(2008年夏)の結果では、「海外旅行」「国内旅行」「自宅でのんびり」という順となり、また、自宅以外を拠点に過ごした人が65.1%と、自宅を拠点に過ごした人(30.0%)を大きく上回っていた。2008年夏と比較すると、年末年始の過ごし方は大きく異なる結果となった。(参照：表1)

## 【考察】

- ▶ 2008-2009年末年始は、暦にも恵まれ、また円高など旅行を計画しやすい環境であったが、実際には国内・海外旅行ともに、夏と比較すると手控えが目立つ。想定される理由として以下の4つが挙げられる。
  1. 季節的な要因：特に年末年始は親族で揃う等の行事や習慣も多く、旅行計画へ少なからず影響があると考えられる。経年的に調査し影響を明らかにしたい。
  2. 先行きへの不安：サブプライムローン問題等により発した世界的な恐慌により、先行き不安感が漂い旅行意欲にも影響があったと考えられる。
  3. 治安への不安：海外旅行の予約がピークを迎える時期に、タイの空港占拠やインドでのテロなどが発生。旅行計画控えに拍車をかけた可能性がある。
  4. 旅行の延期：原油の下落をうけて燃油サーチャージが2009年1月より大幅に値下げされる見通しがあり、旅行時期を選択できる人の中には、より安く行くことができる期待感から延期した人も多いと考えられる。

## 2)年末年始の過ごし方(計画と実際)

～計画と実際が異なったのは全体の14.8%。変更理由として、ツアー中止も～

### 【分析】

- ▶年末年始の過ごし方について、当初の計画と、実際の過ごし方を聞いたところ、計画時には、「自宅でのんびり過ごす」の37.8%に続き「海外旅行」が2位で、20.1%の人が計画をしていた事がわかった。(実際に海外旅行へ行ったのは、15.7%) (参照：グラフ2)
- ▶当初の計画とは違う過ごし方をした人は14.8%。計画と実際に差異が生じた理由は、「その他」「同行者との日程があわない」「特に理由はない」という順に。差異が多かったのは、海外旅行を計画していた人で、計画していた人のうち23.9%の人が、なんらかの理由で取りやめている。(参照：グラフ3)

### 【考察】

- ▶差異が生じた理由の「その他」の自由記述をみると「予約が取れなかった」「ツアーが催行されなかった」「病気・体調不良」等、不可抗力の事象を理由としてあげる人が多かった。(参照：グラフ3)
- ▶特に海外旅行を計画していて取りやめた人は理由として、「定員割れによるツアーの中止」をあげる人が目立ち、「行きたい気持ちはあったがやむなくあきらめた」人もいることがわかる。この点は代替案の提示など、業界としても回避策を検討したいところである。

グラフ2: 2008-2009年末年始の過ごし方 計画と実際

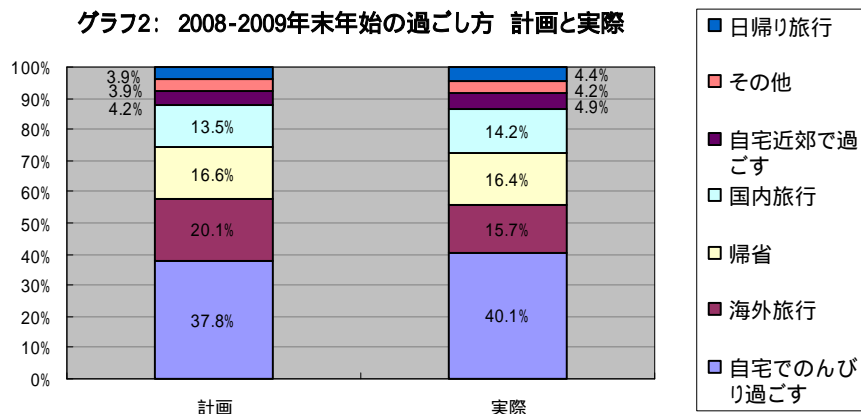
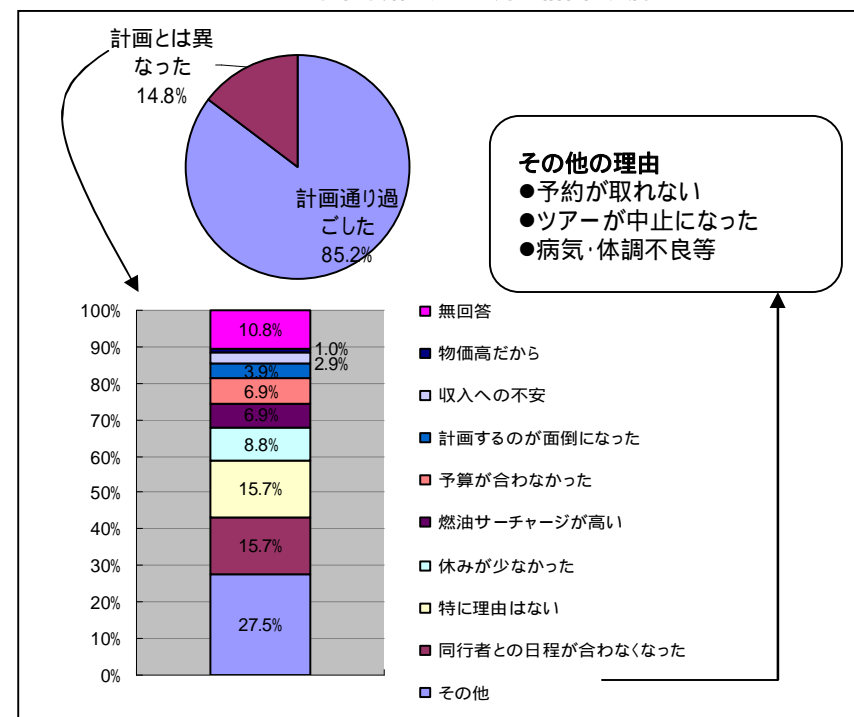


表2: 2008-2009年末年始の過ごし方 計画と実際ランキング

	計画(n=688)		実際(n=688)	
1位	自宅でのんびり過ごす	37.8%	自宅でのんびり過ごす	40.1%
2位	海外旅行	20.1%	帰省	16.4%
3位	帰省	16.6%	海外旅行	15.7%
4位	国内旅行	13.5%	国内旅行	14.2%
5位	自宅近郊で過ごす	4.2%	自宅近郊で過ごす	4.9%
6位	その他	3.9%	日帰り旅行	4.4%
7位	日帰り旅行	3.9%	その他	4.2%

グラフ3: 年末年始の過ごし方～計画と実際～



### 3) 年末年始の休暇日数と旅行期間

～ 平均休暇日数は8.1日。旅行期間は全体的に夏よりも短い傾向に～

#### 【分析】

- ▶2008-2009年の年末年始の休暇日数は、平均8.1日であった。（特定の休みがない人は平均より除外して算出）
- ▶休暇の過ごし方毎に、休暇日数の平均を算出したところ、海外旅行に出かけた人は平均9.6日、国内旅行に出かけた人は8.4日と、全体平均よりも休暇日数が多い傾向となった。逆に自宅を拠点にした過ごし方（自宅、自宅近郊、日帰り）をした人は、全体の平均を割り込む結果となった。（参照：グラフ4）
- ▶2008-2009年年末年始の旅行期間は、海外旅行で平均7.5日間、国内旅行で3.8日間、帰省で4.8日間となった。（参照：グラフ5）

< 参考 > 2008年夏の休暇日数と旅行期間の平均

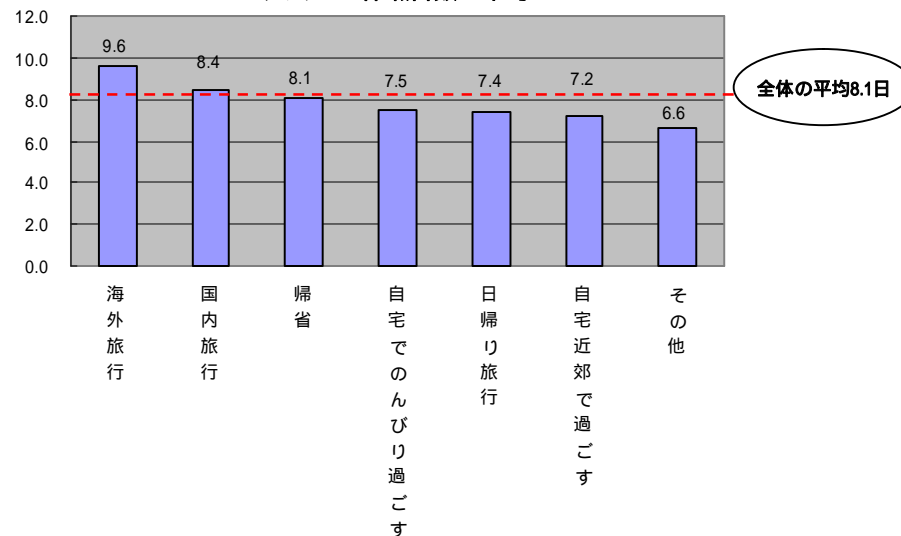
休暇日数：8.1日

旅行期間：海外旅行7.9日間、国内旅行3.9日間、帰省5.7日間

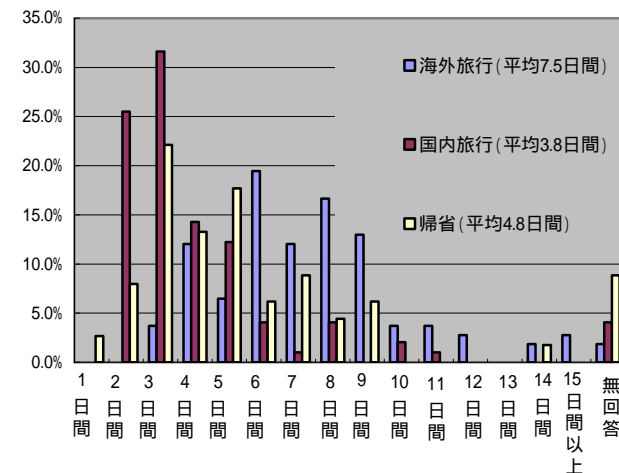
#### 【考察】

- ▶前回（2008年夏）と比較すると、平均の休暇日数が8.1日と変わらないのに対して、旅行期間は「海外旅行」「国内旅行」「帰省」全般について、やや短くなった。出かける際も、家で過ごす時間を比較的長めに確保している傾向が伺える。季節的な傾向と推測され、経年的に観察していきたい。
- ▶海外旅行、国内旅行に行った人の休暇日数は平均より高く、今回の結果だけをみれば、休暇日数と旅行実施については、相関があるように思われる（参照：グラフ4）。しかし前回（2008年夏）と平均の休暇日数は8.1日と変わらないのに、海外旅行・国内旅行の実施率は下がっており（参照：P8表1）、休暇日数以前に季節的な要因等が実施傾向に関与すると考えられる。
- ▶国内旅行の平均旅行期間は昨夏（3.9日）よりも、0.1日短くなったが、全体的な傾向は変わらない。一方で、旅行費用の平均は増加しており、費用面と絡めた分析が必要である。（参照：P14：「7.旅行費用について」【考察】）

グラフ4： 休暇日数の平均



グラフ5： 2008-2009年年末年始旅行期間



## 4) 旅の同行者

～海外旅行は「夫婦」、国内旅行は「家族」と一緒にトップ。「ひとり」旅も人気～

### 【分析】

- ▶海外旅行では「夫婦」(34.3%)、「ひとり」(29.6%)、「友人・同僚」(13.9%)という順に。前回(2008年夏)と比較すると、「夫婦」が7.1%増加し、「家族(一世帯)」が4.1%減少している。(参照：グラフ6)
- ▶国内旅行では、「家族(一世帯)」(30.6%)、「夫婦」(27.6%)、「ひとり」友人・同僚が、それぞれ11.2%と続く。前回(2008年夏)と比較すると「家族(一世帯)」が9.8%増加し、「夫婦」が6.9%減少している。「家族(一世帯)」は、海外旅行を控え国内旅行にシフトしている傾向がみられる。また「ひとり」友人・同僚も、わずかではあるが減少している。(参照：グラフ7)

### 【考察】

- ▶海外旅行の「ひとり」旅は、前回(2008年夏)に引き続き、安定的な数値を占める。同行者との日程の調整が必要がない、手軽に計画が可能など、季節や経済状況の影響を受けにくいことも考えられ、次回以降調査を進めたい。(参照：表3、4)
- ▶「夫婦」と「家族(一世帯)」の前回(2008年夏)と今回の動きを、海外旅行と国内旅行のそれぞれで追ってみると、「夫婦」については、海外旅行で27.2%から34.3%に増加している代わりに国内旅行で34.5%から27.6%に減少している一方、「家族(一世帯)」については、国内旅行で20.8%から30.6%に増加している代わりに海外旅行で17.1%から13.0%に減少していることがわかる。この傾向については、「夫婦」と「家族(一世帯)」の属性に着目することにより、一定の説明をすることが可能となった。(参照：表3,4及びP12)

グラフ6: 海外旅行の同行者

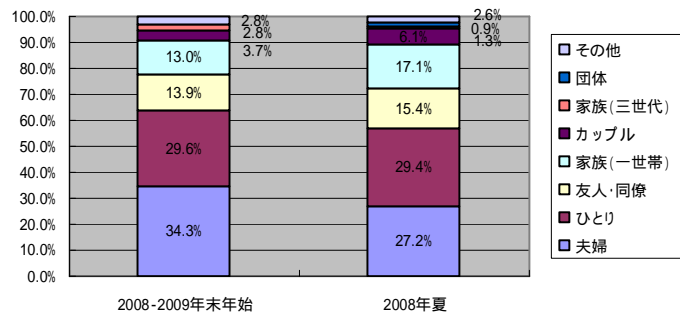


表3: 海外旅行の同行者ランキング(2008年夏との比較)

	2008-2009年末年始(n=108)		2008年夏(n=228)		
1位	夫婦	34.3%	1位	ひとり	29.4%
2位	ひとり	29.6%	2位	夫婦	27.2%
3位	友人・同僚	13.9%	3位	家族(一世帯)	17.1%
4位	家族(一世帯)	13.0%	4位	友人・同僚	15.4%
5位	カップル	3.7%	5位	カップル	6.1%
6位	家族(三世帯)	2.8%	6位	家族(三世帯)	1.3%
7位	団体	0.0%	7位	団体	0.9%
	その他	2.8%		その他	2.6%

グラフ7: 国内旅行の同行者

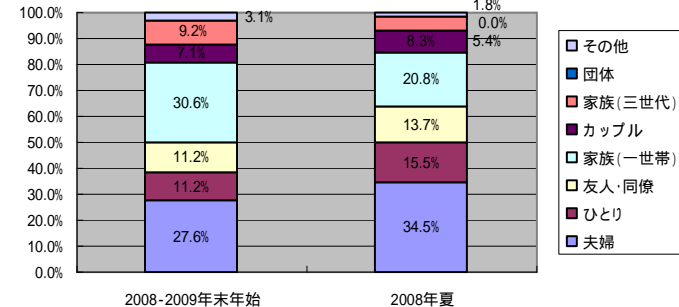


表4: 国内旅行の同行者ランキング(2008年夏との比較)

	2008-2009年末年始(n=98)		2008年夏(n=168)		
1位	家族(一世帯)	30.6%	1位	夫婦	34.5%
2位	夫婦	27.6%	2位	家族(一世帯)	20.8%
3位	ひとり	11.2%	3位	ひとり	15.5%
	友人・同僚	11.2%	4位	友人・同僚	13.7%
5位	家族(三世帯)	9.2%	5位	カップル	8.3%
6位	カップル	7.1%	6位	家族(三世帯)	5.4%
7位	団体	0.0%	7位	団体	0.0%
	その他	3.1%		その他	1.8%

## 4) 旅の同行者 (考察に関するグラフ・表)

～旅の同行者と旅行動向は、属性に左右されるところが大きく～

### 【考察】(P11の続き)

回答者全体の属性(平均年齢等)より、「夫婦」及び「家族(一世帯)」と回答した人の属性の違いは、“子供の有無”に大きくあると仮定し、既婚者について旅行動向を改めて分析してみた。すると、子供がいない夫婦は、「海外旅行」(19.0%)へ積極的に出かけ、子供がいる夫婦は「海外旅行」(7.9%)を控え「国内旅行」(16.7%)へ出かけるという、家族構成による違いがみられた。また子供がいる夫婦は、“自宅で過ごす”という回答も平均より多く、先行きへの不安、経済的な問題等の影響を強く受けやすく、それが旅行動向にも現れていると思われる。(参照:グラフ8,表5)

属性という視点を新たに加えると、上記のほか海外旅行において、男女によって同行者に大きな差があることが分かってきた。男性の海外旅行者の46.8%が「ひとり」と回答、続く「夫婦」(25.5%)を大きく離れた。特に「ひとり」という回答には20代～40代が目立つ。一方、女性の海外旅行者の場合は、同行者は「夫婦」が41.0%でトップ、続いて「友人・同僚」21.3%という結果に。(参照:グラフ9,表6,7)

グラフ8: 2008-2009年末年始の過ごし方(既婚者×子供有無)

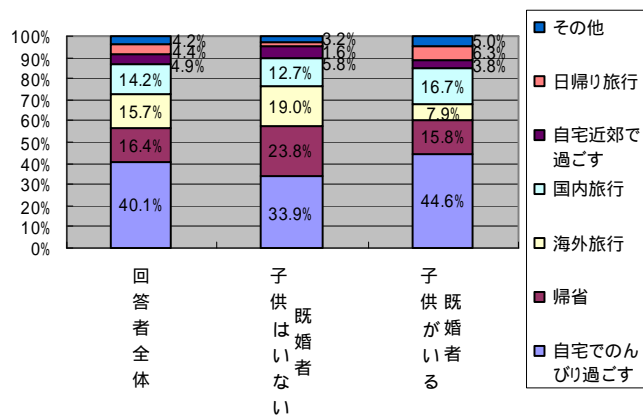


表5: 2008-2009年末年始の過ごし方(既婚者×子供有無)

	回答者全体 (n=688)	既婚者 子供がいない (n=189)	既婚者 子供がいる (n=240)
自宅でのんびり過ごす	40.1%	33.9%	44.6%
帰省	16.4%	23.8%	15.8%
海外旅行	15.7%	19.0%	7.9%
国内旅行	14.2%	12.7%	16.7%
自宅近郊で過ごす	4.9%	5.8%	3.8%
日帰り旅行	4.4%	1.6%	6.3%
その他	4.2%	3.2%	5.0%

グラフ9: 男女別、旅の同行者(海外と国内)

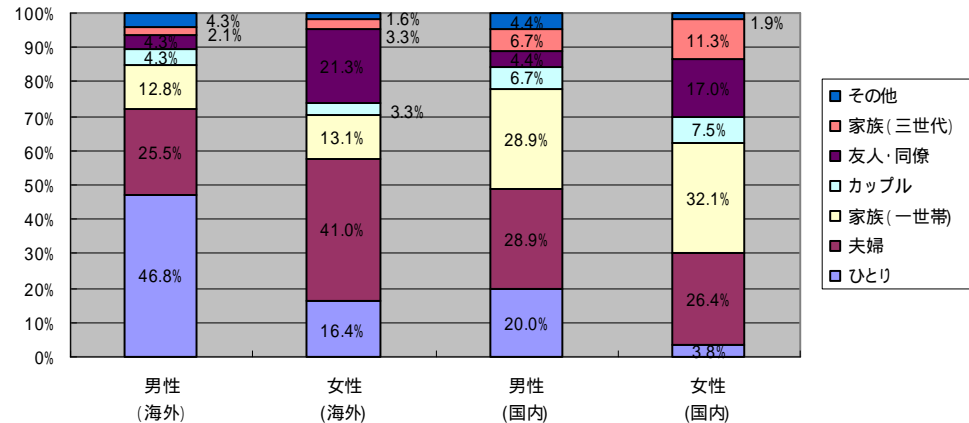


表6: 男女別、旅の同行者ランキング(海外)

	男性 (n=47)		女性 (n=51)	
1位	ひとり	46.8%	夫婦	41.0%
2位	夫婦	25.5%	友人・同僚	21.3%
3位	家族(一世帯)	12.8%	ひとり	16.4%
4位	カップル	4.3%	家族(一世帯)	13.1%
	友人・同僚	4.3%	家族(三世帯)	3.3%
	その他	4.3%	カップル	3.3%
7位	家族(三世帯)	2.1%	その他	1.6%

表7: 男女別、旅の同行者ランキング(国内)

	男性 (n=47)		女性 (n=51)	
1位	夫婦	28.9%	家族(一世帯)	32.1%
	家族(一世帯)	28.9%	夫婦	26.4%
3位	ひとり	20.0%	友人・同僚	17.0%
4位	家族(三世帯)	6.7%	家族(三世帯)	11.3%
	カップル	6.7%	カップル	7.5%
6位	友人・同僚	4.4%	ひとり	3.8%
	その他	4.4%	その他	1.9%

## 5) 旅の手配内容

～ 海外旅行の67.6%、国内旅行の83.7%が個人手配。ツアーは振るわず～

### 【分析】

- ▶ 前回(2008年夏)と比較すると、「個人手配」は全体で10.3%増となり、特に海外旅行で「個人手配」が多くなっている。(参照：グラフ10、11)
- ▶ 海外旅行・国内旅行をした人の手配状況は、「個人手配」が75.2%で一位、続いて「交通&ホテルがセットのツアー」(19.9%)、「添乗員付きのツアー」(4.9%)となった。(参照：グラフ10)
- ▶ 海外旅行は国内旅行と比較すると、ツアーの利用率は「交通&ホテルがセットになったツアー」「添乗員付きのツアー」をあわせて32.4%と好調だった。(参照：表8)
- ▶ 国内旅行では、83.7%が個人手配。添乗員付きのツアーは僅か1.0%であった。(参照：表8)

### 【考察】

- ▶ 個人手配が多くなった要因としては、年末年始の旅行は、ゆっくりとした滞在型を志向する傾向が強く、個人で比較的手配がしやすいこと、特定期間におけるツアー価格の高騰なども個人手配が多くなった要因と考える。次回以降の結果を注意深く観察する必要があるようだ。(参照：グラフ10、11)
- ▶ 海外・国内ともに、年末年始は添乗員付きのツアーは、減少している。旅の同行者も「団体」という回答は0%であり、年末年始は親しい人とゆっくりと過ごす傾向が強いようだ。(参照：表8,9)

グラフ10: 2008-2009年末年始手配内容(海外旅行、国内旅行合計)

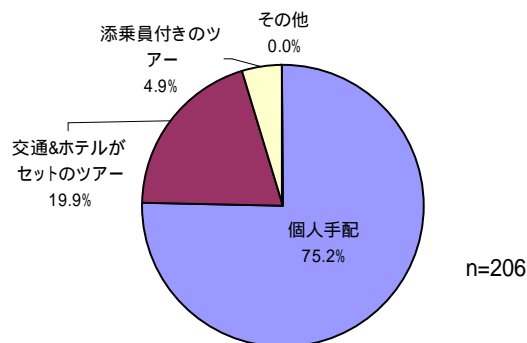


表8: 2008-2009年末年始手配内容(海外旅行と国内旅行別)

2008-2009 年末年始	個人手配	交通&ホテルが セットのツアー	添乗員付き のツアー	その他
海外旅行(n=108)	67.6%	24.1%	8.3%	0.0%
国内旅行(n=98)	83.7%	15.3%	1.0%	0.0%
海外旅行・国内旅行合計 (n=206)	75.2%	19.9%	4.9%	0.0%

グラフ11: 2008年夏手配内容緒(海外旅行、国内旅行合計)

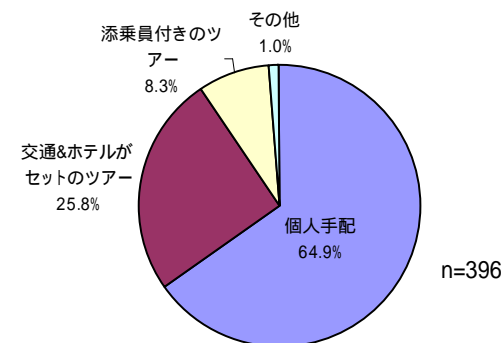


表9: 2008年夏手配内容(海外旅行と国内旅行別)

2008年夏	個人手配	交通&ホテルが セットのツアー	添乗員付き のツアー	その他
海外旅行(n=228)	57.5%	31.1%	11.0%	0.4%
国内旅行(n=168)	75.0%	18.5%	4.8%	1.8%
海外旅行・国内旅行合計 (n=396)	64.9%	25.8%	8.3%	1.0%

## 6)申し込み窓口

～ Webからの申し込みが増加、旅行会社の窓口は昨夏よりも減少～

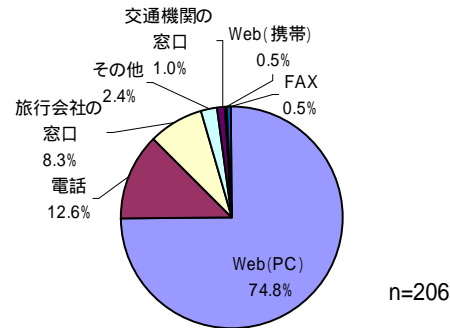
### 【分析】

- 海外旅行、国内旅行の申し込み窓口を調査したところ、「Web (PC)」が、74.8%でトップとなった。「電話」(12.6%)、「旅行会社の窓口」(8.3%)と続く。(参照：グラフ12)
- 特に海外旅行では、79.6%の人が「Web (PC)」と回答している。(参照：表10)
- 一方で「Web(携帯)」、「FAX」という回答は、1%未満と利用者は少ない。(参照：グラフ12)

### 【考察】

- 「Web (PC)」経由の申し込みの増加が著しい中、「旅行会社の窓口」が、前回(2008年夏)と比較して半減している。要因としては、「5)旅の手配内容P12)」で報告したとおり、ツアーそのものの申し込みが減少していることが大きいと考えられる。(参照：グラフ12、13)
- また、逆に考えるとツアーの申し込み以外で「旅行会社の窓口」を利用する人は少なくなっているようだ。すなわち交通機関、宿泊施設などへの直接手配が安易になり、仲介役的な旅行会社への依存が急速に低下している可能性がある。
- なお、「Web(PC)」には、旅行会社のWebサイトも含まれており、今後は利用したサイトの内容まで、調査を広げる必要もありそうだ。

グラフ12: 2008-2009年末年始の旅行申し込み窓口(海外旅行、国内旅行合計)



グラフ13: 2008年夏の旅行申し込み窓口(海外旅行、国内旅行合計)

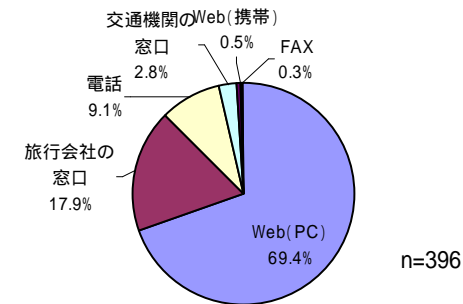


表10: 2008-2009年末年始の旅行申し込み窓口(海外旅行と国内旅行別)

2008-2009 年末年始	Web (PC)	Web (携帯)	電話	旅行会社 の窓口	FAX	交通機関 の窓口	その他
海外旅行(n=108)	79.6%	0.0%	8.3%	9.3%	0.9%	0.0%	1.9%
国内旅行(n=98)	69.4%	1.0%	17.3%	7.1%	0.0%	2.0%	3.1%
海外旅行・国内 旅行合計(n=206)	74.8%	0.5%	12.6%	8.3%	0.5%	1.0%	2.4%

表11: 2009年夏の旅行申し込み窓口(海外旅行と国内旅行別)

2008年夏	Web (PC)	Web (携帯)	電話	旅行会社 の窓口	FAX	その他
海外旅行(n=228)	72.4%	0.4%	6.1%	19.3%	0.0%	1.8%
国内旅行(n=168)	65.5%	0.6%	13.1%	16.1%	0.6%	4.2%
海外旅行・国内 旅行合計(n=396)	69.4%	0.5%	9.1%	17.9%	0.3%	2.8%

# 7)旅行費用について

～1人当たりの平均旅行費用は、国内旅行は0.9万円高く、帰省は1.1万円少なく～

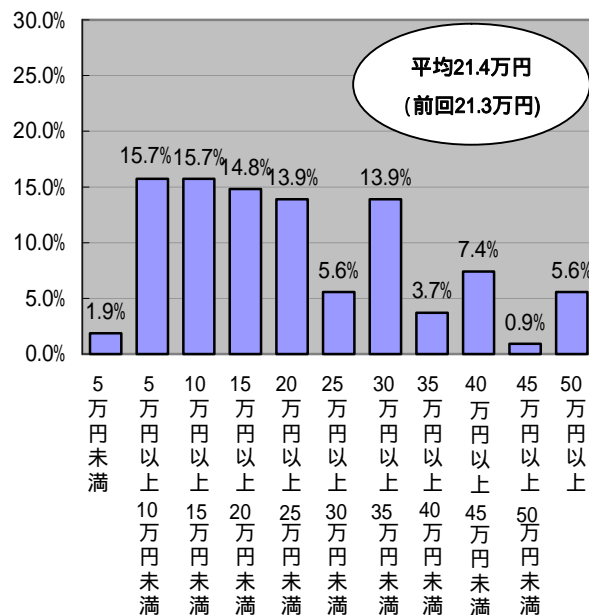
## 【分析】

- ▶ 年末年始にかかった一人当たりの平均旅行費用は、「海外旅行」21.4万円、「国内旅行」6.7万円、「帰省」2.3万円となった。（参照：グラフ14,15,16）
- ▶ 海外旅行は、5万円～20万円がボリュームゾーンで、「50万円以上」という人も5.6%いる。（参照：グラフ14）
- ▶ 国内旅行は、「3万円台」16.3%、「2万円台」14.3%と、比較的低予算に集中する一方で、「10万円以上」が最も多く22.4%となった。「10万円以上」という回答者には、30代、40代が目立つ。（参照：グラフ15）
- ▶ 帰省の費用は、1万円前後の人が多く、マイカー利用者も多く見られた。（参照：グラフ16）

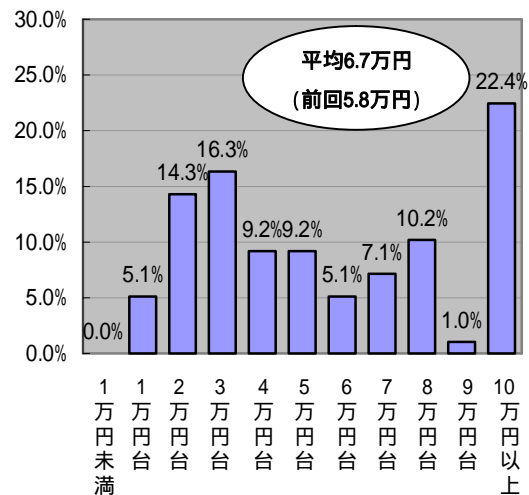
## 【考察】

- ▶ 海外旅行の平均費用は、前回(2008年夏)と比較すると0.1万円高くなっている。夏と比較して年末年始は燃油サーチャージが高騰しているが、サーチャージの値上げ分を0.1万円で吸収するのは難しい。そう考えると、旅行先がより安価な近場へシフトしている可能性が考えられる。（参照：グラフ14）
- ▶ 年末年始に行った旅行記をピックアップし、旅行先を調査したところ「ソウル」「台北」「香港」という旅行先が上位に上がり、上記推測を裏付ける結果となった。
- ▶ 国内旅行については、前回と比較し0.9万円高くなったが、旅行日程は0.2日短くなっており、1日あたりの単価は高くなっている。要因として、夏と違い特定時期に予約が集中するため、ツアーや宿泊価格の高騰が影響している可能性がある。
- ▶ 帰省費用は、前回と比較すると1.1万円安くなっている。JRをはじめとする電車の割引切符が発売されたこと、マイカー派は、高速料金のETC割引や、ガソリン代の値下がりなども関連しているようだ。（参照：グラフ16）

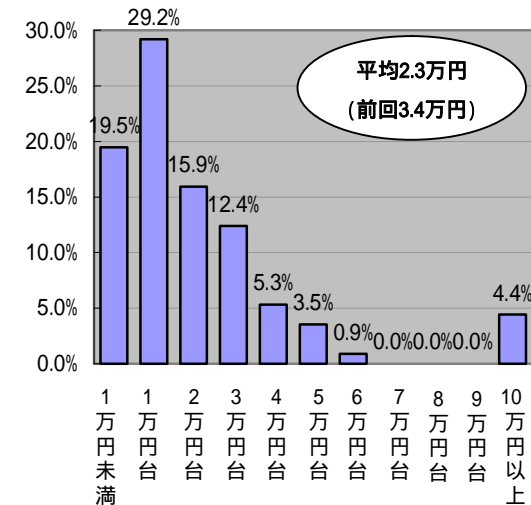
グラフ14: 海外旅行費用分布(n=108)



グラフ15: 国内旅行費用分布(n=98)



グラフ16: 帰省費用分布(n=113)



## 8)旅行の予約時期

～帰省は45.1%が当日手配、もしくは予約をしない。旅行会社での手配は、ツアー発売後早めに動く～

### 【分析】

- ▶最終的な予約完了率は、「海外旅行」で100.0%、「国内旅行」で98.0%と高い一方で、「帰省」では54.9%、「日帰り旅行」では70.0%となった。（参照：表12）
- ▶手段毎の予約時期をみたところ、「旅行会社の窓口」で予約する人は他の手段で申し込む人と比較し、海外旅行では「5ヶ月前～4ヶ月前」、国内旅行については「3ヶ月前～2ヶ月前」に急激に増える（参照：表13、グラフ17）
- ▶「Web（PC）」と電話は似た動きをするが、海外旅行の手配については、「電話」での申し込みをする層が、より出発日が近づいてから手配する傾向にある。（参照：グラフ17）

### 【考察】

- ▶「帰省」や「日帰り旅行」の手配では、実質“交通機関”の手配だけになる。今回「当日手配、もしくは予約無し」と回答した人の中には、「マイカーを利用するため予約が不要」「（電車・バスなど）当日に交通機関の窓口や券売機で購入」という人も多かった。（参照：表12）
- ▶「旅行会社の窓口」で海外旅行を予約する人は、5ヶ月前から動き始め、出発日2ヶ月前には、すべての人が予約を完了している。これは旅行会社の年末年始の商品の発売時期（2008年7月下旬ごろより発売）および在庫状況（繁忙期は在庫はほとんどなくなる）等と関連していると思われる。（参照：グラフ17）
- ▶国内旅行の予約のピークは、店頭のパフレットが秋冬のものに入れ替わる9月～10月と重なり、品揃えとの関係もありそうだ（参照：グラフ17）

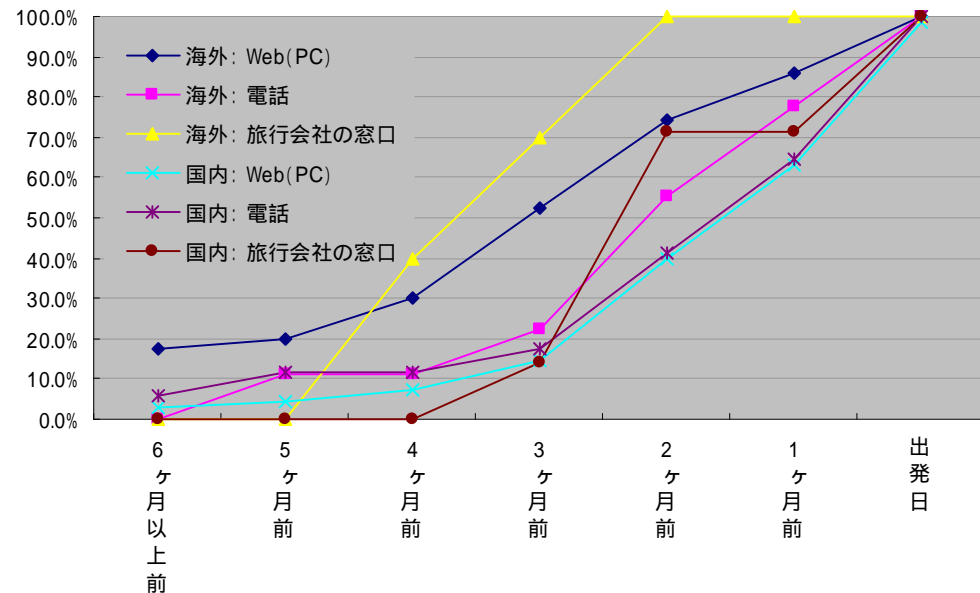
表12: 2008-2009年末年始 旅行の予約完了率

	海外旅行	国内旅行	帰省	日帰り旅行
最終的な予約完了率	100.0%	98.0%	54.9%	70.0%
当日手配もしくは予約無し	0.0%	2.0%	45.1%	30.0%

表13: 2008-2009年末年始 旅行の予約時期

	海外旅行			国内旅行		
	Web (PC)	電話	旅行会社の窓口	Web (PC)	電話	旅行会社の窓口
6ヶ月前以上前	17.4%	0.0%	0.0%	2.9%	5.9%	0.0%
5ヶ月前	19.8%	11.1%	0.0%	4.4%	11.8%	0.0%
4ヶ月前	30.2%	11.1%	40.0%	7.4%	11.8%	0.0%
3ヶ月前	52.3%	22.2%	70.0%	14.7%	17.6%	14.3%
2ヶ月前	74.4%	55.6%	100.0%	39.7%	41.2%	71.4%
1ヶ月前	86.0%	77.8%	100.0%	63.2%	64.7%	71.4%
出発日	100.0%	100.0%	100.0%	98.5%	100.0%	100.0%

グラフ17: 2008-2009年末年始 旅行の予約完了率



## 9) 旅の計画時に重視するポイント

～ 海外、国内とも「行き先重視」「目的重視」「条件重視」の順に多い。国内旅行では「目的重視」が急増～

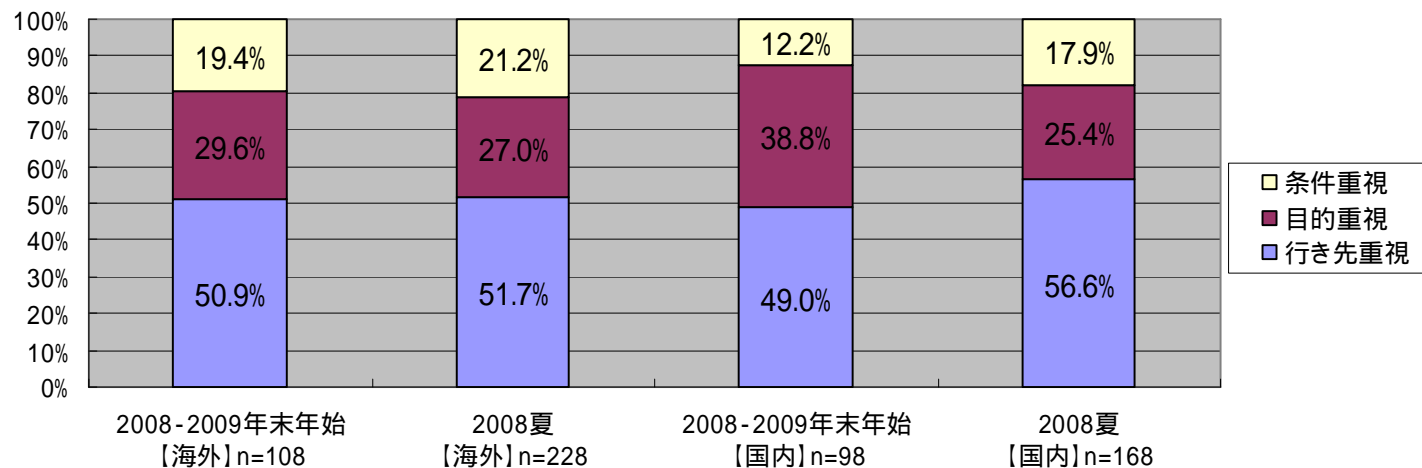
### 【分析】

- 旅の計画時に重視したポイント（行き先重視、目的重視、条件重視の3つ）を聞いたところ、海外旅行、国内旅行とも、「行き先重視」「目的重視」「条件重視」という順になった。この傾向は前回（2008年夏）と変わらない。
- 国内旅行では「行き先重視」（49.0%）に続き、「目的重視」という回答が、38.8%と急増。「条件重視」は12.2%に留まる。
- 海外旅行では「行き先重視」（50.9%）、「目的重視」（29.6%）、「条件重視」（19.4%）という順に。

### 【考察】

- 旅行といえば「行き先重視」というスタイルから、“旅で何ができるか、どんなことをしたいか”という「目的重視」が、前回（2008年夏）と比較して増えている。特に国内旅行では「目的重視」をあげる人が増加。各地で地域ブランドや、着地型でのツアー造成等の取り組みが強化され、旅先で「何ができるか」を知り、目的から旅行計画をしやすい環境が整ってきたこととも関連がありそうだ。一方で、年末年始という季節的な要因も考えられ、今後の継続的な調査結果も観察し、明らかにしたい。
- 旅行者の「目的重視」の傾向が強まっていることから、具体的な旅プランを提案できる仕組みが、今後一層強く求められそうだ。
- 「条件重視」が少なかった要因としては、旅先への憧れや、目的がない層は、そもそも旅行計画をしていない可能性が考えられる。
- 厳しい経済状況において、「条件重視」の増加を予想していたが、結果的には変わらず、むしろ微減した。要因としては、旅先への憧れや、目的がない層は、そもそも旅行計画をしていない可能性が考えられる。

グラフ18: 旅の決定の際、最も重視したこと



**条件重視:** 旅の予算や旅行期間などの条件から検討する **目的重視:** 温泉・世界遺産・ビーチリゾートなど **行き先重視:** 行き先や地域が確定しており、そこを中心に決める

# 10)旅の情報収集

～ 全体的に情報収集意欲が低下、クチコミは微増。季節的な要因も大きいのか～

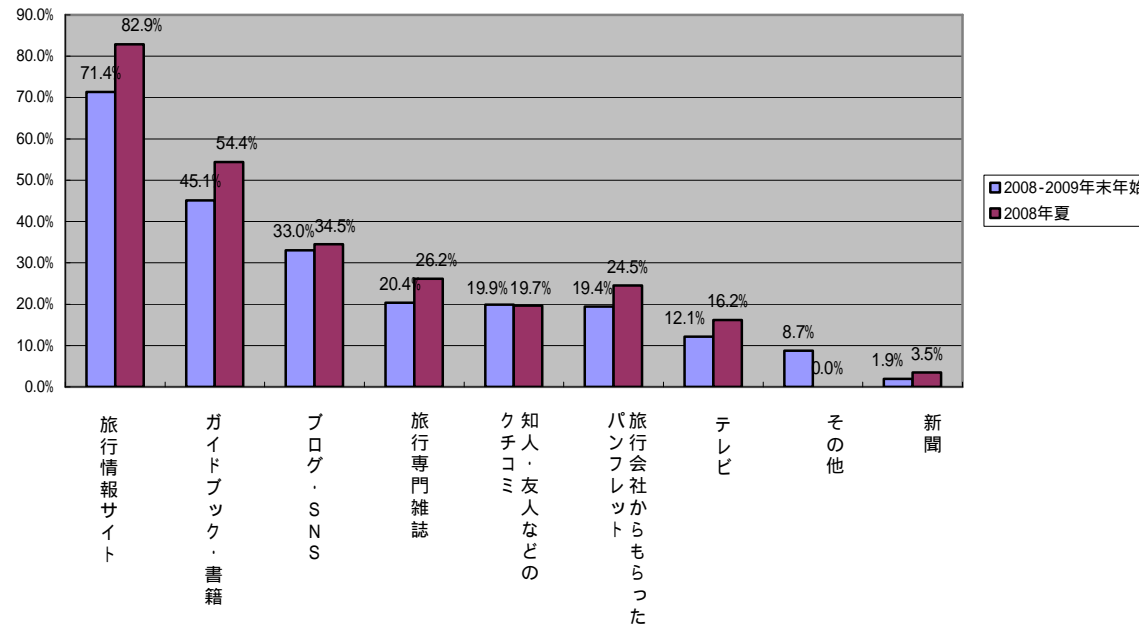
### 【分析】

- ▶旅行前に参考にしたメディアについては、「旅行情報サイト(71.4%)」、「ガイドブック・書籍」(45.1%)、「ブログ・SNS」(33.0%)という順に。
- ▶前回(2008年夏)と比較すると、順位は変わらないが、全体的にポイントが減少。(本調査は、複数回答可能で利用したものすべてにチェックをする形式で調査)
- ▶「知人・友人などからのクチコミ」が唯一、前回(2008年夏)から微増(0.2%up)し、19.9%となった。

### 【考察】

- ▶ 全体的に情報収集意欲が前回(2008年夏)と比較して、低下しており、「旅行情報サイト」、「ガイドブック・書籍」が特に大きく落ち込んでいる。原因としては、年末年始の旅行スタイルにあると推測する。年末年始は観光がメインというよりも、宿泊先でゆったりと過ごす人が多い。アクティブな旅と比較すると必要な情報量も少ない。その結果、夏と比較すると積極的に情報収集をしないのではないだろうか？
- ▶ また、旅行先についても、年末年始は初めての場所よりもリピーターで訪れる人が多い傾向にあるとも考えられる。この点についてはあくまでも現段階では推測であり、今後の調査で明らかにしていきたい。

グラフ19: 旅行前に参考にしたメディア(複数回答あり)



# .まとめ

# 1) 2008-2009年末年始旅行動向調査の結果総括

まず初めに、結果を参照・分析する際の留意点について触れておきたい。本調査の回答者は、直近1年間に海外旅行を平均1.9回、国内旅行を平均4.1回実施する“旅行好き”の集まりであり、**必ずしも本調査の動向が、社会全体の動向と一致するとは限らない。**一方で旅行の魅力を知り、実際に旅へ多く出ている“旅行のオピニオンリーダーたち”の動向であり、**旅行トレンドの先行指標としては十分参考となる点も多い。**以上を踏まえた上で、旅の需要喚起やサービスの企画・向上を考える一つのきっかけとして本報告書をご覧ください。

また、今回が2回目の実施となるため、結果を読み解く中で、比較対象が前回（2008年夏）の結果に限られるという制約があった。ある事象が明らかになっても、その要因については推測から踏み込めないことも多く、特に“**単年的な傾向なのか？**”“**季節的な傾向なのか？**”の読み取りには苦慮した。ここについては今後の重点観察ポイントとして洗い出し、継続的に観察することで明らかにしていきたい。

結果の中身を見てみると、年末年始の過ごし方では、「自宅でのんびり」が40.1%でトップとなり、旅行控えが浮き彫りになった。円高、暦など旅行には最適といわれる条件もそろっていた年末年始だが、“**年末年始の過ごし方の傾向（P8）**”で列挙したような要因が複雑に絡んだ結果と思われる。ただし“**旅の同行者（P11）**”で考察した通り、属性により旅行動向はかなり異なった動きをしている点にも注意したい。旅の需要喚起にあたっては、画的ではなく属性を踏まえたそれぞれの事情にあわせた工夫や配慮も必要となるだろう。そして、“予約が取れず諦めた”人がいるほか、“予約したツアーが定員割れで催行中止になった”という理由で、旅を断念した人が多くみられた点にも着眼したい。**“行く気はあったが、行けなかった”層に対する、機会損失を防ぐための施策**を業界として考えたいところである。

また「帰省」する人が、「海外旅行」「国内旅行」を抑え多かったが、「帰省」および「日帰り旅行」では、予約をせずに出かけるケースも多いことがわかった。特別な手配をせず旅へ出るスタイルは、“**日常の延長上の旅**”として、新たな切り口で動向を探る必要性がありそうだ。

さらに情報収集意欲が、前回（2008年夏）と比較すると全般に低下しており、唯一増えたのは「知人・友人などのクチコミ」という結果になった。本調査の結果を全般的に考えると、**年末年始の旅のスタイルとして“旅に冒険を求めず、確実に満足できるところで、親しい人とゆっくり過ごす”**という印象が強く残る。クチコミなど信用できる人からの情報を参考に、あるいは宿や旅先もリピーターである傾向が強いのではないだろうか。

年代別では、**「40代」に注目**したい。本調査では、海外旅行へ積極的にでかける傾向が強いこと、また国内旅行では一人当たりの平均費用が「10万円以上」という回答者に多くみられた。旅行スタイルでは**「ひとり旅」**が前回に引き続き一定のシェアがあり、“**どういった魅力（きっかけ）で出かけるのか？**”“**具体的な手配や旅のスタイル**”等、フォーカスして調査・分析することも必要そうだ。

旅行者ニーズの集積としての本調査が、旅行者の重要喚起、業界の役割の再認識、新サービスの構築等に役立つことを願っている。

旅行ジャーナリスト 村田和子

# . 調査結果利用等

## 1) 調査結果利用、その他お問い合わせについて

調査結果の記事及び、グラフや表を、引用・転載する場合は、以下手順に従ってご利用ください。  
なお、本レポートでご報告以外の詳細のデータについてのご質問、問い合わせ等も、以下窓口までお願い致します。

### <本レポートの利用ルール>

掲載に際しては「旅行のクチコミサイト フォートラベル (<http://4travel.jp/>) 調べ」と必ず明記をしてください。

掲載前に必要事項をご記載の上、弊社にご連絡をお願いいたします。

なお、ご連絡頂く際は、以下について明記をお願いいたします。

= 必要事項 =

会社名、担当者名、連絡先（メールアドレス、電話番号）、使用用途、発売日/掲載日

本レポートは情報提供を目的としており、特定のサービス等を提供することに対するアドバイスをするものではありません。また、掲載したデータ及び当該データを加工したグラフ等の正確性・確実性については、その内容を完全に保証するものではありません。なお、本調査結果の利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。

本レポートのご利用にあたっては、以下の事項を禁止いたします。

- (1) 本レポートを改竄して使用すること。
- (2) 本レポートを第三者に対し有償で提供すること。
- (3) 本レポートの複写・複製・転記載・抄録要約、磁気媒体・光ディスクへの入力等をフォートラベル株式会社の許諾なく行うこと。

### <今後の調査について>

本調査は、定期的実施を予定しております。調査速報、ならびに本調査を元にした追加の調査結果などをご希望の方は、以下担当者宛に、メールもしくは電話でご依頼ください。

### <連絡・お問い合わせ窓口>

フォートラベル株式会社  
管理グループ 広報担当 矢野  
Mail : [press@4travel.jp](mailto:press@4travel.jp)